



タバコは、おなかの赤ちゃんに、なぜよくないの

タバコの中の有害物質が、赤ちゃんの体にも入るため

おなかの中の赤ちゃんは、へそのおで、お母さんにつながっているため、お母さんがタバコを吸うと、タバコの中の有害物質が、赤ちゃんの体にも入るため、よくないのです。

タバコを吸っている人が吸うけむりを「主流えん」、タバコの先から出るけむりを「副流えん」といい、どちらにも、有害物質がふくまれています。副流えんのほうに、より有害物質が多いのです。そのため、まわりの人は、タバコを吸っている本人よりも、害の多いけむりを吸わされていることになり、これを、受動喫煙といっています。

そして、お母さんのおなかの中にいる赤ちゃんは、へそのおで、お母さんにつながっているため、受動喫煙の、いちばん大きな影響を受けることになるのです。

赤ちゃんのまわりの人も、禁煙することが必要

赤ちゃんは、体が小さいため、生まれたあとも、タバコの影響を大きく受けます。

WHO（世界保健機構）では、両親がタバコを吸っている場合、赤ちゃんが気管支炎や肺炎になる危険は、タバコを吸わない両親の子の、2倍になると述べています。また、タバコの吸い殻を、赤ちゃんがまちがって口にする事故も、あとをたちません。

お父さんやお母さんだけでなく、そのまわりの大人たちも、赤ちゃんの健康のために、赤ちゃんのそばでは、タバコを吸わないようにする、必要があるのです。

（監修・保志 宏）

